

PROFESSIONAL UNDERWATER STROBE SUPPORT

YS-D130R TTL調光簡易チェックガイド

2026.05.27 Rev.1.00

1 はじめに

お手持ちのカメラがYS-D130Rの調光の設定一覧表に掲載されていない場合、以下の手順で確認できます。

TTL発光が大きく破綻することなく、適切な露出を得られていることを簡易的に確認します。

2 用意するもの

- 対象カメラ + レンズ + ハウジング
- YS-D130R (ストロボ本体)
- 光ファイバーケーブル

3 撮影環境

室内で壁などに向かって、手順通りにストロボ撮影を行い、結果を確認します。

- 極端に明るい場所や、起伏のない真っ白な壁は避ける。
- 凹凸のある壁紙など、明るさの異なる被写体が写り込むようにする。

4 カメラ設定 / TTLコンバーター設定

カメラ設定

- 露出モード：マニュアル (M)
- シャッターモード：メカシャッター（選択可能な場合）
- シャッタースピード：1/250秒
- フラッシュ設定：TTL

TTLコンバーター設定

- コンバーターの取扱説明書を参照

4.1 カメラコードを設定

使用するカメラのメーカーに合わせて、YS-D130Rのカメラコードを設定します。

- 電源【OFF】の状態では、OKボタンを押しながらモードダイヤルを【A】まで回転させ、セットアップモードの「Quick Setup」を選ぶ。
- 撮影モード「TTL」を選択。使用するカメラのメーカーに合わせて、以下のカメラコードに設定する。（詳しくは取扱説明書の「クイックセットアップ」(J21)を参照)

Sony	Sony-A	Nikon	Nikon-A
Canon	Canon-A	その他	DEFAULT CAM

4.2 撮影チェック

実際に撮影して、露出を確認します。

1) F5.6でチェック

- カメラとストロボを接続し、絞りを **F5.6** に設定する。
- **2m** の距離から、ISO感度を変更して各1枚ずつ撮影する。
ISO 100 / 200 / 400 / 800

カメラのモニターで、撮影した画像を確認してください。

- 明らかな露出オーバーが発生していないか
- 極端な露出アンダーが発生していないか
- 画像の欠け（部分的な黒枠）がないか

2) F16でチェック

- F5.6の撮影で、すべてで問題がない場合、絞りを **F16** に変更して同様に撮影し、画像をチェックします。

5 カメラコードを決定

F5.6、F16ともに異常が認められなければ、そのカメラコードが適切ということになります。
異常が確認された場合は、カメラコードを変更して最初から確認作業を実施してください。



6 注意事項

- 撮影結果が許容範囲に見えても、実際の撮影条件（背景の明るさ、水の透明度、被写体の色など）により露出にばらつきが生じる可能性があります。
- 全カメラコードで異常が発生する場合は、異常が最小限のカメラコードを選択してください。
- 全カメラコードで露出が著しく過不足する場合はストロボ出力ダイヤルで微調整してください。

！ チェックのポイント

この手順は「大きく破綻していないか」を見るための簡易確認です。完璧な露出を保証するものではありません。